

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興
施策	①文化観光コンテンツの創出・育成	
(施策の小項目)	○マグネットコンテンツの創造・育成・確立	
主な取組	沖縄の文化観光を先導するマグネットコンテンツの事業化促進	実施計画 記載頁 62
対応する 主な課題	○本県には、琉球舞踊や空手などの、世界に誇れる優れた文化資源があり、これらは地域振興の資源として大きな可能性を秘めているが、文化を産業化するノウハウをもった人材が少なく、またビジネスを支える環境が不十分であることから、文化資源の多くが観光をはじめ産業化に結びついていない。	

1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化資源を活用した新たな観光コンテンツをつくり、観光誘客を図ることを目的とする沖縄県文化観光戦略に基づき、芸術性やエンターテインメント性が高く、観光客が「観たい」と強く感じる文化観光商品となる「マグネットコンテンツ」をつくり、プロモーションを行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	高い芸術性やエンターテインメント性を有するマグネットコンテンツの創造・育成						→ 県
	事業の自立化、安定的・定期的なコンテンツ提供の定着促進						
	観光商品魅力を高めるマーケティングの強化						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	111,026	90,841	沖縄県文化観光戦略に基づき、マグネットコンテンツの作り込み(観光客を強く引き付ける目玉となるモデルコンテンツの制作)、無料送迎バスや機内誌への掲載、国際通り大型ビジョンを活用する等のプロモーションの実施、各分野の専門家を構成員としたサポートチームを設置し、プロモーション手法等に関する助言・モニタリング等を実施した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
文化資源を活用した公演の上演回数			—	40公演
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	観光の新たなメニューとなる舞台公演を作り込み、計40公演を実施し、約5,900名の観客動員があった。 継続してのプロモーション及び公演を実施し演出家の認知度が向上したため、誘客に繋げることが出来た。 県内企業による自社周年事業の実施において、買取公演が実施された。 重点的なセールスプロモーションに取り組むことで、旅行代理店でのパッケージ商品の組成やチケット販売など、これまでの手売りだけでなく新たな販売ネットワークが確立できた。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	205,290	引き続き昨年度と同様の活動を行い、マグネットコンテンツのさらなる認知度の向上を図り、観光誘客に繋げる。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

ホームページ作成やFacebookを活用したプロモーション、その他テレビ・ラジオCMだけでなく、国際通り大型ビジョンを活用したプロモーションや機内誌への特集記事の掲載など、様々なプロモーションを実施した。
 各公演個別のプロモーションだけでなく、公演全体としてのプロモーションをあわせて行う事で、効果的なプロモーションに繋がった。
 過剰な演出を抑えるなど経費を抑えることができた一方、十分な集客が行えていないため十分な収入を上げることができなかったため、更なる費用削減、収入確保について検討を行い、引き続きビジネスモデルの確立を目指す。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
観光客の「文化観光」の比率 (旅行中に行った活動 イベント・伝統行事)	4.3% (22年度)	4.6% (24年度)	10.0% (28年度)	0.3ポイント	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
観光客の「文化観光」の比率 (旅行中に行った活動 イベント・伝統行事)	3.3% (21年度)	4.3% (22年度)	4.9% (23年度)	↗	—
状況説明	公演に対する認知度がまだ低いため、更なる観光客向けプロモーションを実施し、目標値達成を目指す。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・公演作り込みおよびプロモーションに十分な時間を確保することができなかった。
- ・継続して公演を行っても、マグネットコンテンツとして作り上げることが困難な公演があった。
- ・演出家の作品によって、集客に偏りが生じた。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・早い時期から事業に取り組み、十分な準備期間を確保する必要がある。
- ・継続して今年度も上演し、ブラッシュアップを図る公演の取捨選択をする必要がある。
- ・作品の質そのもので集客の偏りがでたというよりも、演出家・出演者の支持母体や販売ネットワークの有無が大きく影響していると考えられるため、新たなチケット販売ネットワークを構築する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・早い時期(4月)に事業に着手し、準備時間を十分に確保することで、公演の作り込み、効果的なプロモーションを実施する。
- ・昨年度実施した公演の継続について、取捨選択を行い、継続公演は更なるブラッシュアップを図る一方で、新たな演出家の掘り起こしを行い、公演制作を支援する。
- ・新たなチケット販売ネットワークを構築したものの、当該ネットワークを活用したチケット販売に繋がらなかったため、チケット販売まで繋げることができるようプロモーションを行う。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興		
施策	①文化観光コンテンツの創出・育成			
(施策の小項目)	○マグネットコンテンツの創造・育成・確立			
主な取組	文化観光人材の育成	実施計画 記載頁	63	
対応する 主な課題	○本県には、琉球舞踊や空手などの、世界に誇れる優れた文化資源があり、これらは地域振興の資源として大きな可能性を秘めているが、文化を産業化するノウハウをもった人材が少なく、またビジネスを支える環境が不十分であることから、文化資源の多くが観光をはじめ産業化に結びついていない。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	旅行業界や観光業界、出版業界等様々な分野の実務者で構成する文化観光推進サポートチームを設置し、マグネットコンテンツの事業化推進に係るトータル的なサポートを行うことで、中核となる演出家の育成につなげる。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	文化観光人材の相互交流・連携機会や異業種・異分野とのマッチング機会の提供					→	県
	文化観光サポーター(語り部・ボランティア等)制度の検討						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業等	267,244	246,948	海外芸能関係プロデューサーを審査員として招聘し、県内芸能団体(5団体)による海外演劇への派遣団体を決定することを目的とするコンテストを開催した。 海外派遣団体による報告会を実施した。 旅行業・観光業・出版業界等様々な分野の実務者で構成する文化観光推進サポートチームを設置し、プロモーション手法等について支援、アドバイス等を行った。	一括交付金(ソフト)
			計画値	
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	コンテストにおいて、海外の芸能関係プロデューサーからは海外の方が観ても内容を容易に理解することができるストーリー構成や演出手法等、様々な意見やアドバイスがあったため、今後の公演づくりの参考になった。 サポートチーム会議を5回開催したものの、演出家の会議への参加は少なかった一方で、プロモーション関連については、担当者の出席も多く、プロモーションの考え方だけにとどまらず、具体的な掲載媒体の紹介があり、実際のプロモーションにまで繋げることができたケースもあった。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業等	205,290	海外芸能関係プロデューサーを審査員として招聘し、県内芸能団体によるコンテストの開催 旅行業・観光業・出版業界等様々な分野の実務者で構成する文化観光推進サポートチームを設置し、支援・アドバイス等の実施サポートチーム会議を5回開催したものの、演出家の会議への参加は少なかった一方で、プロモーション関連については、担当者の出席も多く、プロモーションの考え方だけでなく、具体的な掲載媒体の紹介もあり、実際のプロモーションにまで繋げることができたケースもあった。	一括交付金 (ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

<p>海外の芸能関係プロデューサーを審査員として招聘し、県内芸能団体(5団体)によるコンテストを1回開催した。</p>

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
観光客の「文化観光」の比率(旅行中に行った活動 イベント・伝統行事)	4.3% (22年度)	3.7% (24年度)	10.0% (28年度)	△0.6ポイント	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
観光客の「文化観光」の比率(旅行中に行った活動 イベント・伝統行事)	4.3% (22年度)	4.9% (23年度)	4.6% (24年度)	↗	—
状況説明	<p>観光客の「文化観光」の比率は3.7%となり、改善幅は△0.6ポイントとなった。公演に対する認知度がまだ低いため、誰もが観たいと感ずることができる公演をつくることのできる演出家の育成や効果的なプロモーションができる人材の育成を行い、H28目標値10.0%の達成を目指す。</p>				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

<ul style="list-style-type: none"> ・プロモーション担当者が県外プロモーションのためのチャンネルをあまり持っていないため、観光客をターゲットにした効果的なプロモーションに繋げることが出来ない。 ・内容がわかりやすく、かつ観光客に好まれる構成・演出ができる演出家が少ない。
--

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

<ul style="list-style-type: none"> ・県内プロモーション担当者のプロモーションチャンネルを増やす必要がある。 ・演出家に観光客誘客のための目線を持たせるとともに、観光客の好みを理解してもらう必要がある。
--

4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> ・旅行業、広告業、出版業関係者等の実務者との交流機会(意見交換)を提供し、プロモーションチャンネルを増やし、効果的なプロモーションに繋げる。 ・県内外、国外の観光関連事業者等との意見交換等を通して、演出家に観光誘客のための目線を持たせ、公演の作り込みにつなげる。
--

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興		
施策	①文化観光コンテンツの創出・育成			
(施策の小項目)	○文化観光の総合的なおもてなしの向上			
主な取組	文化観光コンテンツの効果的なパッケージ化の促進	実施計画 記載頁	63	
対応する 主な課題	○文化の産業化にあたっては、守るべき伝統文化を大切に継承しつつ、エンターテインメント性など新たな魅力が備わった文化コンテンツを創造し、伝統文化と新しい文化が相乗効果を生み出していくことが重要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	組踊をはじめとする沖縄の伝統芸能を活用した修学旅行メニューの開発を行う。						
年度別計画		25	26	27	28	29～	実施主体
		歴史的な空間・集客交流資源を活用したプログラムの開発・提供支援				→	県
		修学旅行メニュー・ナイトカルチャーメニュー・VIPメニューなどの開発・提供支援					
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	111,026	90,841	修学旅行メニューへ組み入れることが可能となるような公演を制作し、修学旅行取扱関係者を招聘し上記公演を鑑賞してもらうとともに、意見交換を行った。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	関係者と意見交換を行うことで、修学旅行のルートとして入れ込むための具体的な調整時期の確認や、観劇するだけでなくワークショップ(体験)も組み入れて欲しい等の学校側のニーズを確認する事ができた。 平成26年度以降の修学旅行のメニューに組み入れてもらうよう、数件の学校と交渉を行っている。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
文化観光戦略推進事業	205,290	前年度の関係者意見を参考に、修学旅行メニューの開発を行う。 修学旅行関係者を継続して招聘し、意見交換を行うとともに、直接的なセールスプロモーションを行う。 県外で実施される修学旅行商談会等に出展しプロモーションを行う。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

修学旅行関係者との意見交換後、ワークショップ(体験)も組み入れて欲しいという学校側のニーズ等に対応できる公演づくりの検討を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
観光客の「文化観光」の比率(旅行中に行った活動 イベント・伝統行事)	4.3% (22年度)	3.7% (25年度)	10.0% (28年度)	△0.6ポイント	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
観光客の「文化観光」の比率(旅行中に行った活動 イベント・伝統行事)	4.3% (22年度)	4.9% (23年度)	4.6% (24年度)	↗	—
状況説明	観光客への十分な周知が図れなかったため、観光客の「文化観光」の比率は3.7%となり、改善幅は△0.6ポイントとなった。 修学旅行のニーズをもとにプログラムを組成し、修学旅行生の誘客に繋げ、目標値達成を目指す。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・修学旅行ルートは1年以上前に決定するケースも多い。また、都道府県によって修学旅行シーズンが異なっている。
- ・修学旅行メニューに係るニーズは多様化している。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・修学旅行ルート決定時期に留意し、調整を行う必要がある。
- ・旅行業関連事業者との意見交換を行い、ニーズを更に細かく把握する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・修学旅行のメニューの1つとして組み込んでもらうよう、学校及び旅行業関連者と修学旅行ルート決定時期に留意し調整を行う。
- ・多様なニーズに対応出来るよう、複数のプログラムを提供出来る体制づくりや柔軟に対応出来るメニューの開発を行う。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興		
施策	①文化観光コンテンツの創出・育成			
(施策の小項目)	○文化観光の総合的なおもてなしの向上			
主な取組	多種多様なタッチポイント機能の拡充	実施計画 記載頁	63	
対応する 主な課題	○本県には、琉球舞踊や空手などの、世界に誇れる優れた文化資源があり、これらは地域振興の資源として大きな可能性を秘めているが、文化を産業化するノウハウをもった人材が少なく、またビジネスを支える環境が不十分であることから、文化資源の多くが観光をはじめ産業化に結びついていない。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	各文化団体によるイベントが多く開催されているが、文化芸術団体が新聞チラシの広告や手売りによる旧態依然の方法であるため、幅広い層へ効率的かつ効果的な情報提供や購入方法をタッチポイント端末やネットを利用したシステムを検討するとともに、公演会場周辺の宿泊施設とのプロモーション連携や商業施設等でのプロモーションを実施する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	チケット購入・支払い方法等の新たな仕組みの検討					→	県
	宿泊施設・商業施設などのタッチポイントの拡充						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業等	233,058	188,357	チケティングシステム設置に向けた環境整備に関するニーズ調査を実施し、現場スタッフや有識者からシステムのあり方や実現性について検討を行った。 公演会場周辺ホテルとプロモーション連携を行うとともにチケット販売提携も実施した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	公演会場周辺ホテルとプロモーション連携を行うとともにチケット販売提携を行うことが出来た。 チケティングシステムの構築へ向け、購買意欲に繋げ方、イベント情報、顧客情報のデータベース化といった課題、可能性等の検討を行い、次年度継続して取り組む土台づくりとなった。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業等	188,458	芸術文化チケットシステムの構築に関する普及啓発に向け取り組んでいく。 宿泊施設・商業施設などへのタッチポイント設置を昨年度に引き続き取り組み、拡充に努める。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

チケットシステムについては他府県で利用されているが、本県では旧態依然として関係団体間、関係者への手売りや新聞広告、チラシにとどまり十分な広報となっていない課題があり、システムを活用した効率的かつ効果的な仕組みづくりを構築していく必要性について明確にし、チケット予約決済システムモデルや購買意欲の向上に繋がるようなWEBサイト内のコンテンツの充実に取り組み。
県内商業施設やモノレール車両内に公演ポスター等の掲示を行った。また、空港に到着した観光客の滞留時間は短い等の理由により公演関連のプロモーションの効果は薄いと判断し、空港内でのプロモーションは実施しなかった。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	チケットシステムの導入に向けた検討を行い、今後データベースの構築や文化芸術団体の協力と普及啓発に向けた調査等を行う予定。 宿泊施設・商業施設などへのタッチポイント設置を昨年度に引き続き取り組み、拡充に努める。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・チケットシステム導入に向け、観光情報、お勧め情報の提供の仕方(外部環境)やデータベース化(内部要因)の課題を整理していく。
- ・新たなチケット販売ネットワークを構築したものの、チケット取扱(販売)に関する情報発信が少なかつたため、当該ネットワークを活用したチケットの販売に繋がらなかった。
- ・各種公演の認知度がまだ低いため、宿泊施設等での販売連携等のタッチポイント設置に繋げることが出来ない。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・今後のチケットシステム普及に向け、課題や導入のメリットについて関係団体が共有する必要がある。
- ・宿泊施設や旅行代理店等関係者の各公演等の認知度を上げる必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・今後のチケットシステム普及に向け、課題、メリットについて関係団体と共有し、各公演のプロモーションを行うとともに、チケット取扱場所等の情報提供も併せて行う。
- ・宿泊施設や旅行代理店等関係者を公演に招待し実際に観てもらう等により公演等の認知度を上げ、宿泊施設等へのタッチポイントの拡充に繋げる。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興		
施策	①文化観光コンテンツの創出・育成			
(施策の小項目)	○沖縄の文化観光商品の販売促進強化			
主な取組	外国人観光客に向けた文化観光コンテンツのセールスプロモーション	実施計画 記載頁	63	
対応する 主な課題	○本県には、琉球舞踊や空手などの、世界に誇れる優れた文化資源があり、これらは地域振興の資源として大きな可能性を秘めているが、文化を産業化するノウハウをもった人材が少なく、またビジネスを支える環境が不十分であることから、文化資源の多くが観光をはじめ産業化に結びついていない。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	海外向け観光プロモーション展開と連携しながら、沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣し公演を実施するとともに、国際旅行博でのチラシ配布や特設ステージでのパフォーマンス実施をする等、芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行う。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
			来訪した外国人観光客に向けた効果的なセールスプロモーションの実施			→	県
	海外の各種拠点を通じた発地特性を踏まえたセールスプロモーションの実施						
	海外の主要観光関連媒体への露出強化						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄観光国際化ビッグバン事業(芸能活用プロモーション事業)	156,218	156,107	伝統芸能団体(組踊や琉舞)やエイサー団体、沖縄POPユニット等を、海外重点市場及び海外新規市場9カ国(地域)13都市に派遣し、海外公演を行った。 当該公演に、現地の観光事業者や旅行雑誌社等を招待しプロモーションを行うとともに、伝統芸能を活用した旅行商品造成等についてのヒアリング・意見交換を実施した。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
—			—	—
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	海外における沖縄の認知度等が低い状況の中で、海外向けプロモーションの展開と連携し、芸能公演を海外で実施する事で、文化・芸能面から沖縄の魅力する取り組みを行った。のべ13都市で53回の公演を実施し、5,000人以上の観客動員があった。また、観客アンケート調査・観光関連事業者等へインタビューを実施し、諸都市の一般観客の志向・ニーズなどの情報収集を行うことができた。 イギリス大使館WEBサイトのイベントページへの公演情報の掲載や海外演劇祭において、現地批評紙で4つ星を獲得するなどした。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画				
事業名	当初予算	活動内容		主な財源
文化観光戦略推進事業(芸能活用プロモーション事業)	116,415	海外向け観光プロモーション展開と連携しながら、沖縄芸能の歌舞団を海外に派遣して公演を実施し、芸能面から沖縄の魅力を発信する取り組みを行う。 公演チラシの外国語版の作成を行うとともに、国際線機内誌への広告記事掲載等について検討する。		一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

海外旅行博において特設ステージでのパフォーマンスを実施する等、海外向け観光プロモーションとの連携を図り公演を実施した他、現地の著名なブロガーによる公演PRも実施した。
 派遣都市の取捨選択を行うとともに、前年度実施した調査結果に基づく各都市におけるニーズ等を踏まえて公演を実施することで、より効果的なプロモーションに繋がった。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明
 ヨーロッパは組踊などの伝統的な公演が、中国や台湾、香港等は創作エイサーなどのアップテンポの公演が好まれることがH24年度の調査等で確認出来たため、H25年度は各地域の嗜好に併せた公演を行い、観客の反応も非常に良かった。
 イギリス大使館WEBサイトのイベントページへの公演情報の掲載や海外演劇祭において、現地批評紙で4つ星を獲得するなどした。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・旅行業関係者から「当該公演をツアーに組み込み送客したい」との話があるものの、県内公演事業者との連携を図ることが出来ず、ツアー組成時に県内において公演が行われていないため、観光客送客に繋がらなかった。
- ・事業実施団体の選定期間が少し遅かったため、十分な準備期間を確保することができなかった。
- ・海外公演をより効果的に実施するため、海外旅行博をはじめとした県が実施する海外プロモーション事業との連携に留意する。
- ・海外主要観光媒体への掲載にはある程度のコストを要する。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・海外公演を実施した後に、県内公演を実施する等、直接的な観光客誘客に繋がるような公演実施時期の検討を行う必要がある。
- ・十分な事業準備期間が確保できるよう、派遣団体の選定期間・方法の検討を行う必要がある。
- ・海外事務所やOCVB等、海外で事業を展開している関係機関との情報交換を積極的に行う必要がある。
- ・海外主要観光媒体への掲載に代わる、コストを抑えた上で、より効果的なプロモーションの実施について検討する必要がある。

4 取組の改善案(Action)

- ・ツアー組成に要する期間を踏まえた上で、海外公演及び県内公演の実施時期を設定し、海外からの観光客誘客に繋げる。
- ・派遣団体の選定期間・方法等を検討し、早期に選定することにより、十分な事業準備期間を確保し、より効果的なプロモーションを実施する。
- ・海外事務所やOCVB等関係機関と連携して事業を実施し、より事業効果を高める。
- ・海外主要観光媒体への掲載に代わる、コストを抑えた上で、より効果的なプロモーションを実施する。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興		
施策	②文化資源を活用したコンテンツ及びビジネスの創造			
(施策の小項目)	—			
主な取組	沖縄文化等コンテンツ産業創出支援事業	実施計画 記載頁	63	
対応する 主な課題	○文化の産業化にあたっては、守るべき伝統文化を大切に継承しつつ、エンターテインメント性など新たな魅力が備わった文化コンテンツを創造し、伝統文化と新しい文化が相乗効果を生み出していくことが重要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	沖縄の文化等を活用したコンテンツを創出し、県の新たな成長産業としてコンテンツ産業を振興するため、制作プロジェクトに対して投資ファンドによる制作資金の供給を行うとともに、事業者を対象としたコンテンツ制作プランのブラッシュアップ、市場を見据えた販路開拓の手法、考え方などのハンズオン支援を行い、県内で活動するプロデューサーを育成を図った。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	有望なコンテンツの創出、プロデューサーの育成					→	県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化等コンテンツ産業創出支援事業	56,023	34,171	沖縄の文化等を活用したコンテンツを創出し、県の新たな成長産業としてコンテンツ産業を振興するため、投資ファンドによる制作資金の供給を行うとともに、事業者を対象としたコンテンツ制作プランのブラッシュアップ、市場を見据えた販路開拓の手法、考え方などのハンズオン支援を行い、県内で活動するプロデューサーを育成する。	一括交付金 (ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
コンテンツ制作プロジェクト投資件数			—	2件
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	ファンド(基金)による投資事業であるため、リスク分析した上で事業の主旨、要件に照らし、投資決定される。そのため、件数としては大きな増加はないが、モントリオール世界映画祭にて観客賞を受賞した作品「カラカラ」も輩出され投資効果がみられる。 本県で活動している制作者や実演スタッフは多いが、プロデューサーは少なく、その育成には至っていない。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化等コンテンツ産業創出支援事業	49,972	引き続き昨年度と同様の活動を行い、さらなるコンテンツ産業の創出及びプロデューサー育成につながるよう事業者を対象としたハンズオン支援を行う。	一括交付金 (ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

従来のハンズオン支援に加えてパイロット版制作に対する支援措置等を行いながら、コンテンツプロジェクトの組成に取り組むことで、ゲームやエンターテインメント系コンテンツの事業提案も増えている。本県で活動している制作者や実演スタッフは多いが、プロデューサー少なくその育成には至っていない。
 ※ハンズオン支援＝成功に導くために必要とされるあらゆる支援を行うこと。制作プランのブラッシュアップ、市場を見据えた販路開拓の手法、考え方など指導助言を行う。
 ※パイロット版＝本格的に制作に入る前に試験的に作った作品。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化コンテンツ関連産業事業所数	257事業所 (21年度)	—	282事業所	—	32,003事業所 (21年度)
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—

状況説明
 ファンド(基金)による投資事業であるため、リスク分析した上で事業の主旨、要件に照らし、投資決定されるため、ハンズオン支援を行い目標値に向け取り組む必要がある。経済センサスは5年に1回行われるため、本年度の数字はないが、当該取組により一定の改善がはかられ、H28目標値達成が見込まれる。

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

・プロジェクトが映像系のものに集中しており、ゲーム系やエンターテインメント系のコンテンツも含めて、コンテンツプロジェクト全体の組成促進を図る必要がある。この状況はゲーム系コンテンツが他コンテンツに比べ開発速度が速く、めまぐるしく変化している中、投資決定までのスキームが長い補助事業には申請件数自体が少ない。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・引き続きアドバイザリーボード(各分野における専門家集団)やハンズオンマネージャーによる制作プランのブラッシュアップ、市場を見据えた販路開拓の手法、考え方など助言指導を行うことによって、プロジェクトの熟度、ノウハウを高め人材育成につなげる必要がある。
 ※ハンズオンマネージャー＝成功に導くために必要とされるあらゆる支援を行うスタッフ責任者。

4 取組の改善案(Action)

・引き続きアドバイザリーボード(各分野における専門家集団)やハンズオンマネージャー(上記参照)による指導、助言を行う。
 ・県外企業の事業提案の要件として県内で活動しているプロデューサーを採用することが要件となっていることから、事業提案の際は事業主旨を説明し、県内プロデューサー活用に繋げ育成に努める。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興		
施策	②文化資源を活用したコンテンツ及びビジネスの創造			
(施策の小項目)	—			
主な取組	文化資源を活用した新事業の創出	実施計画 記載頁	64	
対応する 主な課題	○文化の産業化にあたっては、守るべき伝統文化を大切に継承しつつ、エンターテインメント性など新たな魅力が備わった文化コンテンツを創造し、伝統文化と新しい文化が相乗効果を生み出していくことが重要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化資源を活用した新たな取り組みなどに対する費用を補助する。斬新な発想や取り組みによって伝統文化の可能性や文化としての広がりにつながる事業に対して支援する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		文化資源を活用したビジネスの支援				→	県
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	233,058	188,357	和装における沖縄染織もののコーディネートや琉装の着付け、髪結い、ジーファー(金細工等)に係る技術の産業化などの事業を採択	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
地域の文化資源を活用した新たな取り組みへの支援			—	5件
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	伝統文化を継承しつつ、新たな産業創出につながる事業を実施したことで、その可能性が広がっている。例)「沖縄芝居再生、普及プロジェクト」:八重瀬町、西原町など地方公演を行い、字幕表示も取り入れる。「伝統組踊りの継承と発展プロジェクトの推進」:組踊を楽しく観るワークショップ開催を行った。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画				
事業名	当初予算	活動内容		主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	188,458	文化資源を活用した新たな取り組みなどに対する費用を補助する。斬新な発想や取り組みによって伝統文化の可能性や文化としての広がりにつながる事業に対して支援する。継続事業については事業の主旨、考え方、手法について助言、指導を行う。		一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

H25年度は募集要項を見直し、公募前に事業者へ説明会を1回開催し、事業の概要や提出書類、事業計画書作成方法について周知を図り、円滑な執行に努めた。また、文化関係団体へは採択、不採択に関わらず事業がより充実したものとなるよう進め方、取組方法、次年度採択を受け実施する上での留意事項等助言と指導を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化コンテンツ関連産業事業所数	257事業所 (21年度)	— (—)	282事業所	—	32,003事業所 (21年度)
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	新たな産業創出につながるプロジェクションマッピングによるナイトカルチャー創出事業や沖縄の素材(漆、芭蕉)を使った手すき和紙の体験型ワークショップが採択された。今後も伝統文化を活用した新たな取り組みを進めていく。経済センサスは5年に1回行われるため、本年度の数字はないが、当該取組により一定の改善がはかられ、H28目標値達成が見込まれる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・文化関係団体のこの事業への理解度が不足し、事業実施(申請含む)に係る事務処理能力に格差がある。
- ・採択事業者の執行において当初予定した講師陣の変更や雇用予定事務員数の減等があり、十分執行できなかったため、採択後も可能な限り連携とり、執行残とならないよう指導、助言に努める必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・現在の実施スキーム(事業者の提案を外部有識者で審査し、採択後事業実施。審査前は事業の主旨、取り組み手法について助言指導し事業者提案に対しフォロー)に沿い、さらに今後文化関係団体への助言、指導を強化する。

4 取組の改善案(Action)

- ・応募から事業執行まで文化関係団体へ助言、指導を行う。事業提案前は事業計画書の記載方法や採択される上でのポイントなど指導し、不採択となったあとも次年度につながるよう事業の考え方、取り組み方法を助言指導し、事業者の掘り起こしを図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興		
施策	②文化資源を活用したコンテンツ及びビジネスの創造			
(施策の小項目)	—			
主な取組	沖縄文化活性化・創造発信支援事業	実施計画 記載頁	64	
対応する 主な課題	○文化の産業化にあたっては、守るべき伝統文化を大切に継承しつつ、エンターテインメント性など新たな魅力が備わった文化コンテンツを創造し、伝統文化と新しい文化が相乗効果を生み出していくことが重要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成などに対する費用を補助する。加えて、PDCAサイクルによる事業評価システムを導入し、補助事業の成果の充実及び効果的な支援をし、「沖縄版アーツカウンシル」のあるべき姿を構築する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
	30件 支援事業数				→		県
	地域の文化資源を活用した文化・芸能団体活動の支援					→	
	アーツカウンシル機能モデルの導入						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	233,058	188,357	和装における沖縄染織もののコーディネートや琉装の着付け、髪結い、ジーファー(金細工等)に係る技術の産業化などの事業を採択	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
地域の文化資源を活用した文化・芸能団体活動の支援			30件	36件
推進状況	平成25年度取組の効果			
順調	計画値30件に対し、実績値は36件となった。「琉装普及プロジェクト」事業では、ファッションショーや教養講座を開催し、様々なシーンでの活用が提案され、身近に気軽に琉装を楽しめる機会を創出し、「めんそーれ沖縄～沖縄文化観光ファン増大促進事業」では、沖縄燦燦という舞台を公演し海外の国際芸術祭において評価を得、沖縄観光のメニューとして文化芸術が確立しつつある。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
沖縄文化活性化・創造発信支援事業	188,458	県内の団体等が行う、文化資源を活用した取り組みやアートマネジメントを含む広く沖縄文化の継承者の育成など30件以上の支援事業に対し補助する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

H25年度は募集要項を見直し、公募前に事業者へ説明会を開催し、事業の概要や提出書類、事業計画書作成方法について周知を図り、円滑な執行に努めた。また、文化関係団体へは採択、不採択に関わらず事業がより充実したものとなるよう進め方、取組方法、次年度採択を受け実施する上での留意事項等助言と指導を行った。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
文化コンテンツ関連産業事業所数	257事業所 (21年度)	— (—)	282事業所	—	32,003事業所 (21年度)
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	琉装普及プロジェクト事業、めんそーれ沖縄～沖縄文化観光ファン増大促進事業など新たな産業創出につながる事業が複数採択された。経済センサスは5年に1回行われるため、本年度の数字はないが、当該取組により一定の改善がはかられ、H28目標値達成が見込まれる。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・文化関係団体のこの事業への理解度が不足し、事業実施(申請含む)に係る事務処理能力に格差がある。
- ・採択事業者の執行において当初予定した講師陣の変更や雇用予定事務員数の減等があり、十分執行できなかったため、採択後も可能な限り連携とり、執行残とならないよう指導、助言に努める必要がある。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・現在の実施スキームについては引き続き継続するが、文化関係団体への助言、指導を事業提案前から関わり、事業計画書の記載の仕方や採択する上での留意点など指導し、事業採択の審査終了後も丁寧にフォローし、適切な事業積算、執行に努め、事業者の掘り起こしを図る。

4 取組の改善案(Action)

- ・応募から事業執行まで文化関係団体へ助言、指導を行う。事業提案前は事業計画書の記載方法や採択される上でのポイントなど指導し、不採択となったあとも次年度につながるよう事業の考え方、取り組み方法を助言指導し、事業者の掘り起こしを図る。

「主な取組」検証票

施策展開	1-(5)-ウ	文化コンテンツ産業の振興		
施策	②文化資源を活用したコンテンツ及びビジネスの創造			
(施策の小項目)	—			
主な取組	アーツマネージャー育成事業(仮称)	実施計画 記載頁	64	
対応する 主な課題	○本県には、琉球舞踊や空手などの世界に誇れる優れた文化資源があり、これらは地域振興の資源として大きな可能性を秘めているが、文化を産業化するノウハウをもった人材が少なく、またビジネスを支える環境が不十分であることから、文化資源の多くが産業化に結びついていない。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	文化芸術に係るマネジメントに関する座学及び県内外の文化関連企業等へのOJT派遣を実施し、文化芸術をマネジメントできる人材を育成する。						
年度別計画	24	25	26	27	28	29～	実施主体
		5人 育成人員			→	→	県
	文化の産業化と発展に寄与できる人材の育成						
担当部課	文化観光スポーツ部 文化振興課						

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の推進状況

(単位:千円)

平成25年度実績				
事業名	予算	決算見込	活動内容	主な財源
アーツマネージャー育成事業	16,100	13,483	ニーズ調査及び実証講座を踏まえ、検討委員会で講座カリキュラム(事業企画の作り方、広報宣伝の構築、会計基礎、関係法令など座学)の作成、OJT派遣プログラム(日本オーケストラ連盟、文学座、東京芸術劇場など劇場、劇団への派遣研修)の作成を行った。	一括交付金(ソフト)
活動指標名			計画値	実績値
文化の産業化と発展に寄与できる人材の育成			5人	— H25は研修内容検討のため実績なし
推進状況	平成25年度取組の効果			
やや遅れ	人材育成に向けたプログラミング(どういった研修内容にすべきか、時期、回数、派遣先などの検討)を行い、次年度具体的に様々なメニューを実施していく準備を行うなかで、検討委員会で講座カリキュラム(事業企画の作り方、広報宣伝の構築、会計基礎、関係法令など座学)の作成、OJT派遣プログラム(日本オーケストラ連盟、文学座、東京芸術劇場など劇場、劇団への派遣研修)の作成に時間を要したため、やや遅れとなった。			

(2) 今年度の活動計画

(単位:千円)

平成26年度計画			
事業名	当初予算	活動内容	主な財源
アーツマネージャー育成事業	44,203	講座カリキュラムでは一線で活躍している講師陣を招き、事業企画の作り方、広報宣伝の構築、会計基礎、関係法令などアーツマネージャーとして必要な講義を延べ300人受講させ、講座受講生を対象に日本オーケストラ連盟、文学座、東京芸術劇場など劇場、劇団へ5人OJT研修として派遣する。	一括交付金(ソフト)

(3) これまでの改善案の反映状況

アーツマネージャー人材育成に繋がるような講座カリキュラム、派遣研修となるよう検討を行い、現在一線で活躍している講師陣を招き、内容が充実したものとなっている。

(4) 成果指標の達成状況

成果指標	基準値	現状値	H28目標値	改善幅	全国の現状
—	—	—	—	—	—
参考データ	沖縄県の現状・推移			傾向	全国の現状
—	—	—	—	—	—
状況説明	人材育成に向けたプログラミングを行い、今後人材育成に向けた様々なプログラムを実施していく状況である。講座カリキュラムでは一線で活躍している講師陣を招き、事業企画の作り方、広報宣伝の構築、会計基礎、関係法令などアーツマネージャーとして必要な講義を延べ300人受講させ、講座受講生を対象に日本オーケストラ連盟、文学座、東京芸術劇場など劇場、劇団へ5人OJT研修として派遣する。				

3 取組の検証(Check)

(1) 推進上の留意点(内部要因、外部環境など)

- ・専門家や実演家だけでなく企画、広報などマネジメントできる人材や組織運営能力を有する人材が不足していることから、より実践を経験した人材が求められている。そのためにOJT派遣を通し経験を積む必要がある。
- ・人材を育成する上で、出口＝安定した収入、活躍の場が必要
- ・文化芸術団体、大学などへ参加を呼びかけ、各種媒体を利用し呼びかけており、一定程度の参加が見込める。

(2) 改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・講座や研修への参加・応募状況によって広報の時期手法、講座日程等工夫、検証を行う。
- ・講座参加者や研修生からアンケートや報告会などアウトプットする機会を設け、反映させる。

4 取組の改善案(Action)

- ・講座を通して参加者の声を拾うアンケートや県外研修参加者から定期的に報告会を設け、当事業に反映する。
- ・講座や研修に多くの方が参加するよう、広報時期、仕方、講座日程を検討し、またネットなどを活用しホームページや特設サイトに「研修生の声」を載せるなど外部へ向けて発信するなど工夫する。